

自分で見通しをもって取り組み、
やり切る力を付けるために

1

本実践に関連する児童生徒の実態

対象 小学生

	課題	強み
朝の支度	登校後の朝の支度に時間がかかる。	見通しがもてると、活動できる。
集中の持続	集中が続きにくく、多動である。	ブロックやパズル等、手先を使う活動は集中して取り組むことができる。
主体性	指示を待ち、自分から活動に取り掛かれない。	すべきことが分かると、友達と声を掛け合っ一緒に活動できる。

2

指導目標・指導仮説

教科等及び単元（題材）名
自立活動・教科学習

目標（本実践終了時の期待する子供の姿）
見通しや意欲をもって朝の準備や学習を進め、自分の力でやり切ることができる。

指導仮説
視覚的支援によってゴールまでの見通しをもたせたり、活動に取り組みやすい支援を用いたりすれば、自分から活動に取り組む、やり切ることができるのではないか。

児童生徒の実態

3

指導仮説の具体的な内容と評価内容・方法

◆指導仮説の具体的な内容

【朝の準備】登校～朝の会までにすることを掲示する。
【教科学習】学習の流れを示す。
1時間の学習の中に、小さいゴールを設定する。
活動に取り組みやすい支援を仕組む。

◆評価方法（どのような方法で何を評価するか）

・朝の準備→10分以内にできた際にもらえるシールの数で達成度を見とる
・意欲的に学習に取り組むやり切らせる。
→振り返りの内容
(例)「〇があったから考えやすかった。」

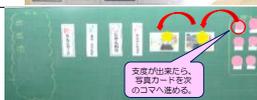
4

指導の実際①【朝の準備】

I. 登校～朝の会までにすることを順番に掲示する。



II. 互いに競い合いながら行える工夫をする。
(1) 板書で「すごろく」形式を用いることで、見通しやゲーム性をもたせる。



(2) 目標時間を10分と設定し、クリアできたら、シールを渡すことで、意欲を喚起し持続させる。



5

指導の実際②【教科学習】

～学習の見通しをもたせるための支援（国語科）～

	単元計画の共有	1時間の学習活動の共有
<p>学習者が抱いた「問い」</p> <p>学習のゴール 単元で付けた力を生かす活動を設定する。</p>		

6

指導の実際③【教科学習】

～活動に取り組みやすい支援（算数科）～

15このボールを3人で等分しよう。（あまりのあるわり算）

具体物の操作



ストローとモールを使って三角形を作ろう。（三角形と角）

試行錯誤できる
材料の選定

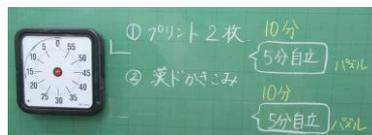


7

指導の実際④【教科学習】

～集中力を持続させるための支援～

学習の途中に「**自立活動**」を意図的・計画的に組み合わせることで、気持ちの切り替えを促し、集中力を持続させる。



8

実践前後での児童生徒の変容

	実践前	実践後
朝の起床	時間までに朝の準備ができる。 (4/4名)	時間までに朝の準備ができる。 (6/6名)
集中の持続	授業中、集中が続きにくかったり、活動に取り掛かりにくかったりする。 (4/10日)	小さいゴールに向かって取り組むことで意欲的に学習に取り組める日が増えた。 (7/7日)
主体性	教師の指示があるまで、何もせず待っていたり、隣の席の児童と話したりしている。	学習の流れを見て、自分から音読をしたり、自分の考えを黒板へ書きに出たり、同学年の児童同士で自分の考えを発表し合う姿が見られるようになった。

9

評価

- 児童生徒は目標を達成したか。
 - ・朝の準備・・・目標を達成した。
 - ・見通しをもって学習に取り組み、やり切る
 - ・・・できる日とできない日があった。
- 判断の理由・根拠
 - ・9月時点では、6名中4名が朝の準備をやり切ることができていたが、12月は、6名全員が朝の準備ができるようになった。登校してから全員が10分以内に朝の準備が終えられるようになった。
 - ・学習に集中して取り組むことは、個の支援のマンネリ化や児童のモチベーションによって有効な日とそうでない日があった。

10

指導仮説の検証

●指導の成果

- ・朝の準備は、するべきことや順番を視覚化し、ゲーム感覚で楽しんで行える工夫をしたことで、全員が意欲的に取り組めるようになった。
- ・学習の流れを提示して学習に取り組むことを繰り返し行ったことで、見通しをもち、児童同士で発表し合ったり声を掛け合ったりして学習を進める姿が見られるようになった。

●課題

- ・達成感を感じられる手立てが不十分のため、学習意欲が低下し、学習に集中して取り組めない日があった。
- ・集中できない原因が正しく把握できず、手立ての方法に迷うことがあった。

11

指導の改善案

●成果・課題を踏まえた改善案

- ・見通しをもって学習に集中して取り組めたときや、するべきことをやり切ることができた際、**肯定的な評価**や声掛けをしたり、児童が「やり切った」「できた」と実感できる**評価表**を取り入れたりする。
- ・「〇分です」等、自分で活動の**目標時間**や**順番を設定させる**ことで、見通しをもたせるとともに、意欲を喚起し持続させる。

12